

世界遺産を掘る 第 1 回 一金閣寺と足利義満

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 前田義明

1 世界遺産

(1) 世界遺産条約(世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約)

文化遺産及び自然遺産を人類全体のため世界の遺産として損傷、破壊等の脅威から保護し、保存

(2) 世界遺産の総数

平成 26 年 9 月 1 日現在で 1007 件(文化遺産 779 件, 自然遺産 197 件, 複合遺産 31 件)

(3) 日本の世界遺産

【文化遺産】顕著な普遍的価値をもつ建築物や遺跡など

法隆寺地域の仏教建造物(1993)など 14 件登録, 最新は富岡製糸場(2014)

【自然遺産】顕著な普遍的価値をもつ地形や生物多様性, 景観美などを備える地域など

屋久島(1993) など 4 件登録

【無形文化遺産】口承による伝統及び表現, 芸能, 社会的慣習, 儀式及び祭礼行事, 自然及び万物に関する知識及び慣習, 伝統工芸技術など

和食日本人の伝統的な食文化(2013)など 22 件登録

【古都京都の文化財】1994 年登録, 17 箇所

賀茂別雷神社(上賀茂神社)・賀茂御祖神社(下鴨神社)・教王護国寺(東寺)・清水寺(地主神社を含む)・延暦寺(比叡山)・醍醐寺(三宝院を含む)・仁和寺・平等院・宇治上神社・高山寺・西芳寺(苔寺)・天竜寺・鹿苑寺(金閣寺)・慈照寺(銀閣寺)・龍安寺・西本願寺・二条城 (下線は文化財講座で予定)

2 西園寺・北山第

[西園寺公経] 源頼朝の姪を妻に。関東申次として朝廷と鎌倉幕府の連携。太政大臣として朝廷の実権

・承久 2 年(1220) 神祇伯仲資王(源仲資)から土地を譲受け, 西園寺と北山第を造営開始

・元仁元年(1224) 西園寺, 落慶供養

・元仁 2 年(1225) 藤原定家(定家は公経の義兄)が訪問し賞賛。「45 尺(約 13.6m)の瀑布の滝碧く, 瑠璃の池水, 泉石の清澄実に比類無し」(『明月記』嘉禄元年(1225)正月 14 日条)

【滝の場所】中根金作氏・東洋一氏・鈴木久男氏は現不動堂横の崖面に想定

【建物配置】本願院(墓所堂)から南屋寝殿までの宝輿の行列「南行, 石橋を降りて南門, 宝蔵の東と長増心院の西南を経て, 石の階段, 善寂院と西園寺の北西を経て西堀中門に入る, 南屋の上中門東庭に至る, 東中門に入り, 公卿座の西階段から下りて南庭…」(『公衡公記』正和 3 年(1314)10 月 1 日条, 西園寺実氏夫人貞子の 13 回忌法要)

3 北山殿

[足利義満] 室町幕府 3 代将軍(1368~1394)。有力守護大名の勢力をおさえて幕府権力を確立, 南北朝を統一。室町時代の政治, 経済, 文化(北山文化)の最盛期を築く。邸宅を三条坊門から北小路(今出川)室町に移し, 幕府の政庁に。正門が室町通りに面したことから室町殿, のちに「花の御所」とも。

・応永元年(1394) 将軍職を嫡男義持に譲り隠居。太政大臣を辞し出家(法名, 道有・道義)

・応永 4 年(1397) 西園寺家から北山第を譲受け, 北山殿を造営開始。西園寺家には河内国に領地

・応永 8 年(1401)「日本国准三后源道義」名で明に使節派遣。建文帝は義満を日本国王に冊封, 君臣に

・応永 11 年(1404) 勘合貿易開始, 七重塔を北山殿に建立

・応永 15 年(1408) 3 月に後小松天皇北山殿に行幸(20 日間), 5 月足利義満が北山殿で没する

【義満の祈祷と祭祀】北山殿大法(台密, 天台宗の秘法群)と呼ばれる祈祷, 毎月 7 日間

【皇位篡奪計画説】義満は次男義嗣を天皇にし, 治天の君として実権を握ろうとしたのでは?(田中義成氏・今谷明氏)→証拠なし

【義満暗殺説】皇位篡奪を阻止するために暗殺された?(伊沢元彦氏)→証拠なし

【建物配置】寺の西南に護摩堂, 東に懺法堂, その東に紫宸殿, 東に公卿の間, 舍利殿(金閣)の北に天鏡閣, 複道で相通ず, 閣の北に泉殿, 会所の東北の山上に看雪亭(『臥雲日件録抜尤』文安 5 年(1448)8 月 19 日条, 最一検校が相国寺の瑞溪周鳳に語る)

・応永 23 年(1416) 相国寺より移築の七重塔が落雷で焼失(場所不明)

・応永 26 年(1419) 4 代将軍義持によって, 舍利殿・護摩堂・法水院以外の建物は解体移築

(懺法堂は等持寺宗鏡堂へ, 紫宸殿は南禅院へ, 天鏡閣は南禅寺方丈閣へ, 公卿の間は建仁寺方丈へ)

【北山殿の敷地】東は紙屋川, 西は衣笠山の麓, 南は現在の衣笠総門町付近

北御所(義満), 南御所(夫人日野康子), 崇賢門院御所(後円融天皇生母)で構成

4 鹿苑寺

・応永 27 年(1420) 義満の院号により鹿苑寺に改める

・応仁元年(1467) 応仁の乱で西軍が布陣, 舍利殿(金閣)以外の堂宇破壊

・文明 19 年(1487) 方丈再建

・天正年中(1573~92) 宇喜田秀家が不動堂再建

・慶安 2 年(1649) 金閣修理

・昭和 25 年(1950) 失火により舍利殿(金閣)と仏像焼失

・昭和 30 年(1955) 金閣再建

5 発掘調査で検出した遺構

(1) 西園寺・北山第のところに造営

① 安民沢(滝組や木樋)→鏡湖池の沈砂池としての機能

② 築地跡(L 区)→南屋(南亭)の築地か?

③ 不動堂→石不動周囲に康永元年(1342)の銘あり, 現不動堂は天正年間に宇喜田秀家再建

(2) 北山殿のところに舍利殿とともに造営

① 安民沢の南側堤整地層と石積み(O 区)

② 滝組(J 区)

③ 修羅と池(N 区)→解体移築後, 鹿苑寺整備に使用され, 池に沈められた?

④ 建物(D 区)→D 区建物は応仁の乱で焼亡か(焼土を確認)

⑤ 鏡湖池周辺に堀(N 区・S 区)→応仁の乱の時に掘削か

参考文献

- 鹿苑寺編『鹿苑』 1955年
 今谷明『室町の王権—足利義満の王権篡奪計画』中公新書 1989年
 中根金作『京都の庭と風土』加島書店 1991年
 川上貢『日本中世住宅の研究〔新訂〕』中央公論出版 2002年
 鹿苑寺編『鹿苑寺と西園寺』思文閣出版 2004年
 鋤柄俊夫『中世京都の軌跡—道長と義満をつなぐ首都のかたち』雄山閣 2008年
 小川剛生『足利義満—公武に君臨した室町将軍』中公新書 2012年



図1 都市計画基本図



図2 北山鹿苑寺境内之図 正保2年(1645) (『鹿苑寺と西園寺』鹿苑寺編より)



図3 大正11年(1922)測図



図4 調査区配置図



図5 安民沢実測図

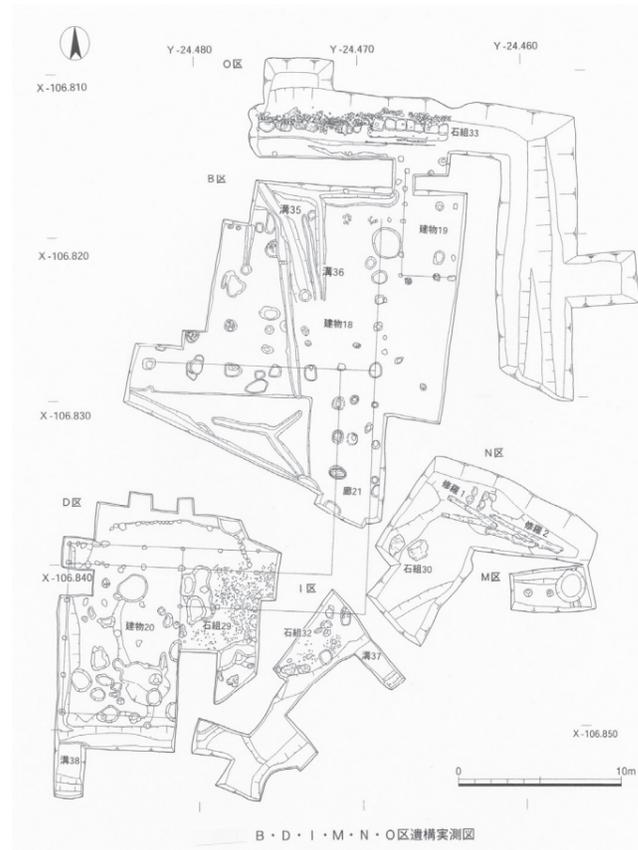


図6 B・D・I・M・N・O区実測図

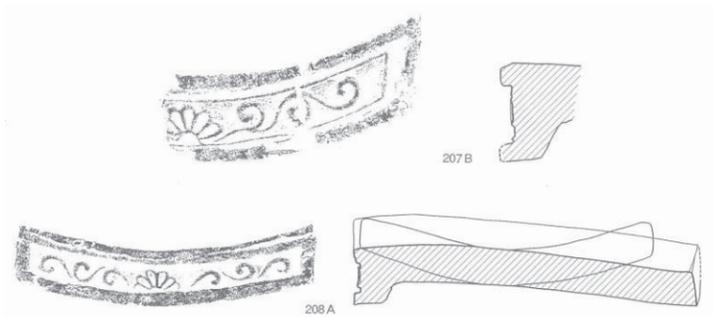
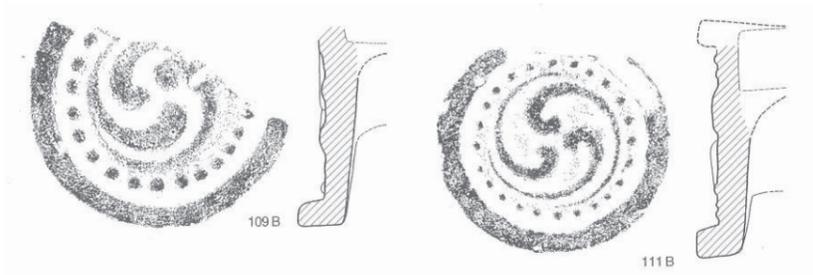


図7 金閣寺出土軒瓦

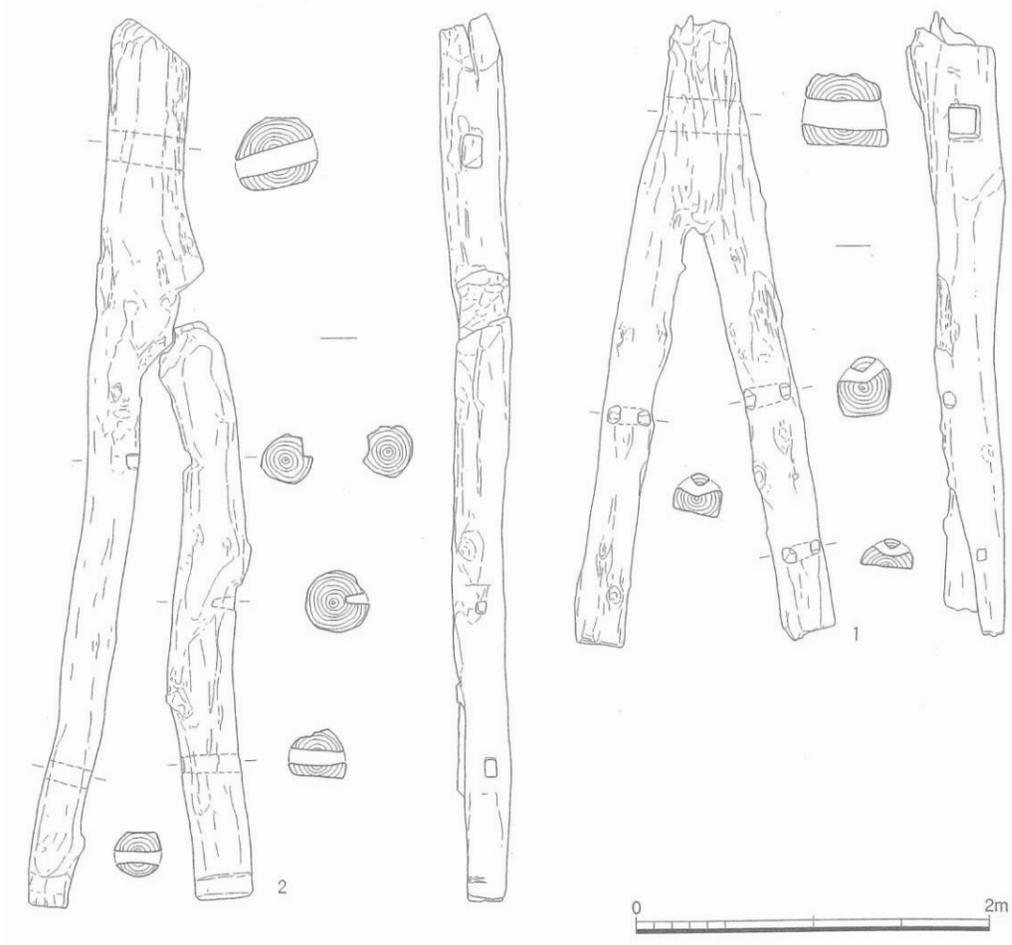
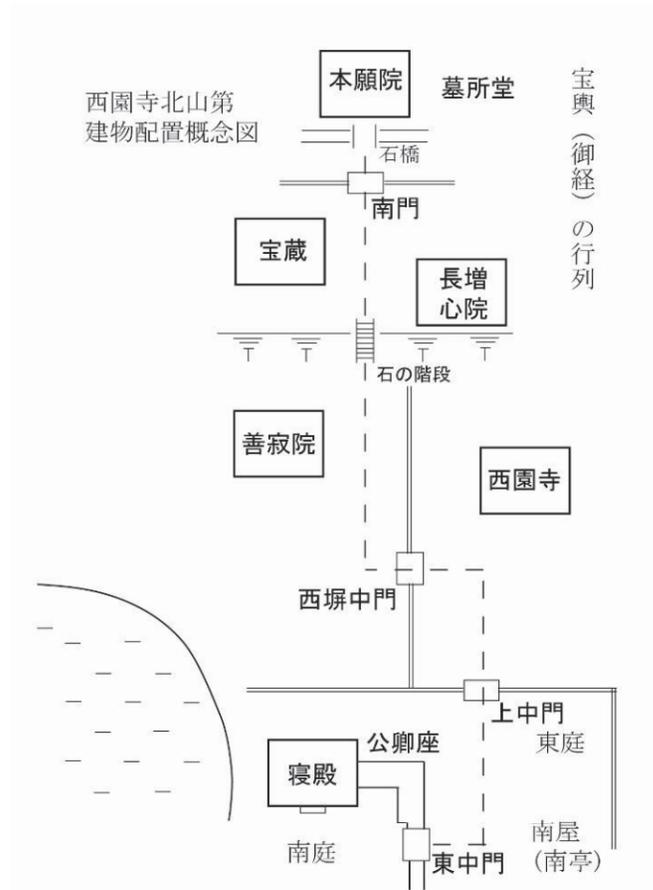
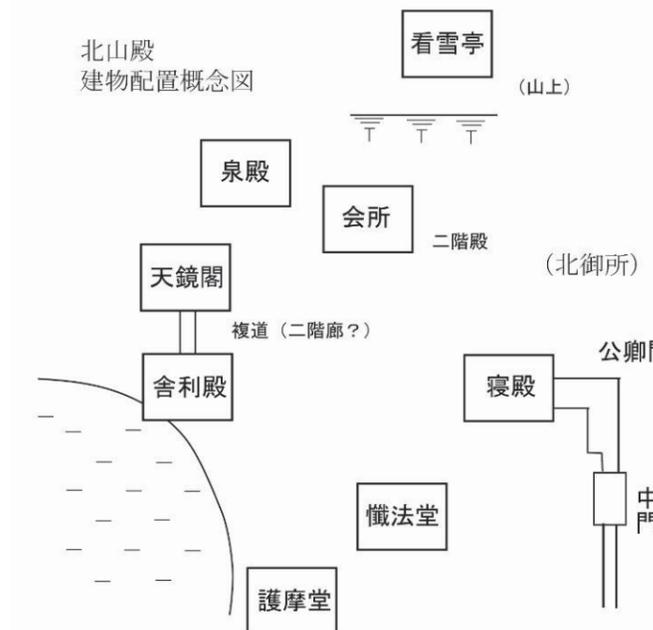


図8 金閣寺出土修羅実測図



『公衡公記』正和三年(一二一四)十月一日(史料集)
 (西園寺公衡の日記)
 南行降石橋出南門、經寶藏東并長増心院西南降同石階、經善寂院并西園寺北西入同西屏中門、經青障子東面織戸前南行、至南屋上中門東庭、樂無打鞆鼓兼秋・大鼓久經、鉦鼓可尋、等、中門內南殿兼儲之、入東中門、此間公卿等兼着公卿座、起座、降公卿座西階徒踐、列立二棟前庭、西上南面下裏次第寶輿經南庭、



『臥雲日伴録拔尤』文安五年(二四四八)八月十九日(大日本古記録)
 (相国寺の僧、瑞溪周鳳の日記)
 今寺西南、有護摩堂、東有懺法堂、今爲小持寺宗鏡堂者是也、懺法堂東、有紫宸殿、今爲南禪院者是也、紫宸殿東、有公卿間、又謂之天上間、今爲建仁方丈者、是舍利殿、有舍利殿、相通、往來者似步虛、閣北有泉殿、今則廢矣、閣曾爲南禪方丈閣、而去歲回祿爲灰燼、可惜、又會處東北山上、有看雪亭、內安七佛藥師像、今在法水院耳、亭則无焉、云々、

図9 建物配置概念図